

平成24年9月12日

美術の森緑地整備検討のたたき台

1 美術の森緑地整備の方向性

- (1) 美術の森緑地の整備にあたっては、様々な彫刻等を設置し、こどもから大人まで楽しめる公園とする。
- (2) 美術館と一体的な管理・運営を行い、屋外展示やイベント機能を有する人が集う場へと機能を充実させる。
- (3) 公園整備にあたり、中村橋駅北口地区のまちづくりに寄与し、賑わいのある、練馬の新しい名所として多くの方が集える場としていく。

2 美術の森緑地の基本的な整備内容

(1) 第1回委員会での委員の意見

緑地は樹木の剪定がされていないと暗いイメージがある。

美術館の前庭を楽しみ空間にしてほしい。

緑地は暗いので、木を伐るのではなく照明を増やしてほしい。

バリアフリーの対応、特に車いすが園内に入れるようにしてほしい。

からくり時計などを設置して、観光スポットにしてみたらよい。

足が悪い人が休憩できる、洒落たベンチを設置してほしい。

昨年、初めて美術館にきたが、前庭としてのインパクトを感じられる場としてほしい。

彫刻のある公園として、殺風景な空間にせず、癒しを感じられる場としてほしい。

休める場所として木立のよさ、落ち着きがあるので維持してほしい。

地区計画や周辺の住宅地、商業施設との連続性が感じられるようにしてほしい。

まちの活性化や賑わいに繋がる中村橋の目玉の場にしてほしい。

(2) 緑地の整備計画

みどりを増やし、彫刻等の展示物等の場所として、既存の陶板タイルを撤去し、原則、芝生の緑地とする。

壁泉は撤去してメインエントランスとする。エントランスから、美術館入り口に至る導線をメイン通路として確保する。

そのほか詳細は、前回の委員の意見等を踏まえ事務局で検討した、動物等を彫刻に配置した別紙「美術の森緑地整備の第1回たたき台」により進める。

3 工事予算額

約7,200万円(展示作品費用等含まず)